

よろず相談所《たんよう》は いつもお客様のそばに……

平素は、当金庫に対しまして何かとお心寄せを賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、安心してお取引をいただくために、2024年9月期決算や経営内容の一端について「半期REPORT2024」としてまとめさせていただきました。

お目通しいただき、《たんよう》のより一層のご理解と引き続きのご支援、ご愛顧をよろしくお願い申し上げます。

但陽信用金庫と地域の絆

当金庫は、大正15年に但馬(朝来市生野町)にて創業。山陽地域にご縁を拡げ、昭和63年5月、東播磨の加古川市に本店を移転。南但馬を含めた兵庫県中南部を事業区域に、中小企業者や地域の住民による会員組織の金融機関として、相互扶助による「地域の発展」「豊かな暮らしの実現」を共通の理念としています。

地域のお客様からお預かりした大切な預金は、地域で資金を必要とされるお客様にご利用いただき、事業や生活の繁栄のお手伝いをするとともに、地域社会の一員として中小企業者や地域の住民の皆様との強い絆とネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めています。

また、金融サービス機能の提供にとどまらず、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標でもある「地域創生」への参画や文化・環境・福祉・教育・観光といった面も視野に、広く地域社会の活性化に積極的に取り組んでいます。

地域貢献・地域活性化支援に関する取組状況



～ボランティアを始めて29年～

■「NPO法人 但陽ボランティアセンター」への人員派遣など、継続して取り組んでいる活動



当金庫は、阪神淡路大震災以降、29年間、ボランティア活動を継続しています。2000年1月以後は、ボランティアを目的に設立した「NPO法人 但陽ボランティアセンター」に、金庫から毎日数名の職員を派遣する形で、車いすを利用されている方々のリフト付福祉車両による「移送サービス」等の支援活動を続けています。

そのほか、

- ・高齢者宅(約2,300軒)へのケア訪問
- ・職員向け「認知症サポーター養成講座」の開催、啓蒙活動への協力
- ・「認知症バリアフリー宣言」を公表
- ・「フードドライブ」、食品ロス削減活動への協力
- ・全店舗ATMコーナーへのAED配備と職員向け「普通救命講習」の継続開催
- ・「こども110番の店」への登録
- ・献血協力、骨髄バンクドナー登録会への協力

などの活動を継続しています。



「認知症バリアフリー宣言」のロゴマーク

■地域における地方創生事業への参画

当金庫は、地域の活性化や雇用の創出に向け、各地域が企画される新たな地域創生事業の創造を支援するとともに、当該事業への参画に積極的に取り組んでいます。

・福崎町に企業版ふるさと納税を行い「妖怪ベンチ」を設置しました

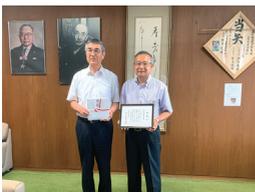
当金庫は、福崎町の観光振興に協力するため、「企業版ふるさと納税」を活用し、寄附を行いました。

2024年8月22日(木)、寄附金贈呈式が福崎町役場で執り行われ、感謝状を拝受しました。

寄附金は2016年から取り組まれている「妖怪ベンチ事業」に活用され、贈呈式後のお披露目式で、福崎支店に設置された妖怪ベンチ「砂かけ婆(さばあ)」が披露されました。

福崎町は、町内の地域活性化と観光をさらに盛り上げてくれることを願い、22基の「妖怪ベンチ」を設置しています。

是非、ユニークな妖怪たちに会いに、福崎町をお訪ねください。



・生野支店・朝来支店・和田山支店に「社会貢献型自動販売機」を設置しました

南但馬警察署・朝来市から、「公益社団法人ひょうご被害者支援センター」への協力・支援の依頼があり、朝来市内3店舗に「社会貢献型自動販売機」を設置しました。

「社会貢献型自動販売機」は、販売代金の一部を「公益社団法人ひょうご被害者支援センター」に寄附する支援システムで、犯罪・性暴力被害、交通事故にあわれた方やその家族をサポートしていくための事業に活用されます。



但陽信用金庫は
犯罪被害者支援活動に貢献しています

この自動販売機の売上金の一部は、犯罪・性暴力被害や交通事故にあわれた方・ご遺族・ご家族の支援活動に使われます